

# 提案の概要

この資料は市の提案書の抜粋であり、この内容の全てが実施されるものではありません。

深谷市では平成27年度策定の「深谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で、「まちの魅力を発信する戦略」の一つとして、「渋沢栄一翁ゆかりの地など本市にある歴史的遺産の魅力を最大限に活かし、市外から人を呼び込み、交流人口の増加を図ると同時に市民の愛着や誇りを醸成する」ためのシティセールス推進事業を重点事業として位置付けております。さらに、戦略を構成する基本事業の中で「郷土の偉人顕彰事業」「観光振興事業」や「渋沢栄一顕彰事業」と共に「生涯学習推進事業」を掲げ、深谷市の特性を生かした「まち・ひと・しごと創生」とその好循環を生み出すために地域資源を活用することとしています。

本提案は、これらの計画や戦略を実現するため、両市連携して深谷の史跡めぐりや小山川周辺を訪れる方のプロムナードとして小山川堤防天端に歩行者自転車道「ウォーク&サイクルロード」を整備するものです。このロードは利根川自転車道を走るサイクリストなどの「ぐるっと埼玉サイクルネットワーク」を結ぶ回遊ルートとなるほか、ウォーキングイベント等で生涯学習、生涯スポーツの一つとして活用します。

この小山川周辺には深谷市内に渋沢栄一記念館、誠之堂・清風亭、旧煉瓦製造施設、本庄市内に塙保己一記念館、競進社模範蚕室、また2014年に世界遺産に登録された田島弥平旧宅(群馬県伊勢崎市)の文化財施設のほか「道の駅おかべ」や温浴が楽しめる「湯かっこ」なども隣接するため、これらをイベント等の休憩施設として有効利用することで本ロードと各施設とで相乗効果が期待できると同時に、本ロードと各施設を結びこれらを有機的に連携させることにより、小山川を中心とする地域の回遊性がより一層高まります。さらに地元住民、観光客、サイクリストやイベント参加者の「ついで散策」や「ついで観光」がしなくなるような人が行き交う仕掛けを行い、計画ルート周辺から「にぎわい」を創出し、これが計画ルート上流部(本庄市)に波及するとともに深谷市北部地域全体の「にぎわい」へと発展することを目指します。

## 取組のイメージ図

一級河川 小山川 堤防天端 整備要望箇所図



## 計画等の位置付け

### ■ 深谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略

まちの魅力発信戦略の中で渋沢栄一翁をはじめとする郷土の偉人を顕彰し、市への集客を図ることとしている。また、暮らしやすさ向上戦略として、生涯学習への理解を深め学習成果をまちづくりに生かすこととしている。

### ■ 深谷市産業振興計画

基本施策「にぎわいを生む観光の振興」の中で、北部地域振興センター協力・指導のもと広域観光ルートの整備を行うこととしている。また、同施策の中で「日本一の道の駅」として「道の駅おかべ」の機能向上を目指すこととしている。

### ■ 深谷市都市計画マスタープラン

自転車・歩行者ネットワークの整備方針の中で安全で人にやさしい歩行空間の整備に基づく自転車ネットワークに位置付けられている。本市マスタープランはここで位置付ける基盤整備により、「都市・田園・文化が織りなすまちづくり」を目指している。

## 目標・成果指標

### ■ 計画ルート周辺の「にぎわい」創出

地元住民、観光客、サイクリストが安心してウォーキングやサイクリングの出来る環境を整え、本市の史跡や「道の駅おかべ」等を巡ることで周辺の「にぎわい」創出を目指す。

成果指標	現在	整備後
史跡巡り来訪者 <small>※深谷市総合振興計画後期基本計画目標値から</small>	15,000人/年	18,000人/年
市内ウォーキングイベント	—	1,500人/年
道の駅おかべイベント来訪者	1,000人/年	2,000人/年

※このほか施設によっては、サイクリスト来訪者数等も調査を開始する予定

## 位置図



## 川の状況

- 深谷市内の小山川の延長 10.7km (利根川合流部からの総延長)
- 活動団体 現在は無い
- 川の特徴
  - ・自然あふれる田園風景の中を流れている。
  - ・史跡等が点在する深谷市北部地域の歴史エリアを貫流する。
  - ・地元住民の散歩ルートとして親しまれているが、夏場は草が生い茂り近づき難い。
- ぐるっと埼玉サイクルネットワーク
  - ・複数の横断ルートが設定
- 過去の事業(小山川:本庄市)
  - ・水辺再生100プラン
  - 遊歩道の整備:延長 270m
  - 多目的広場 A=4,450m<sup>2</sup>



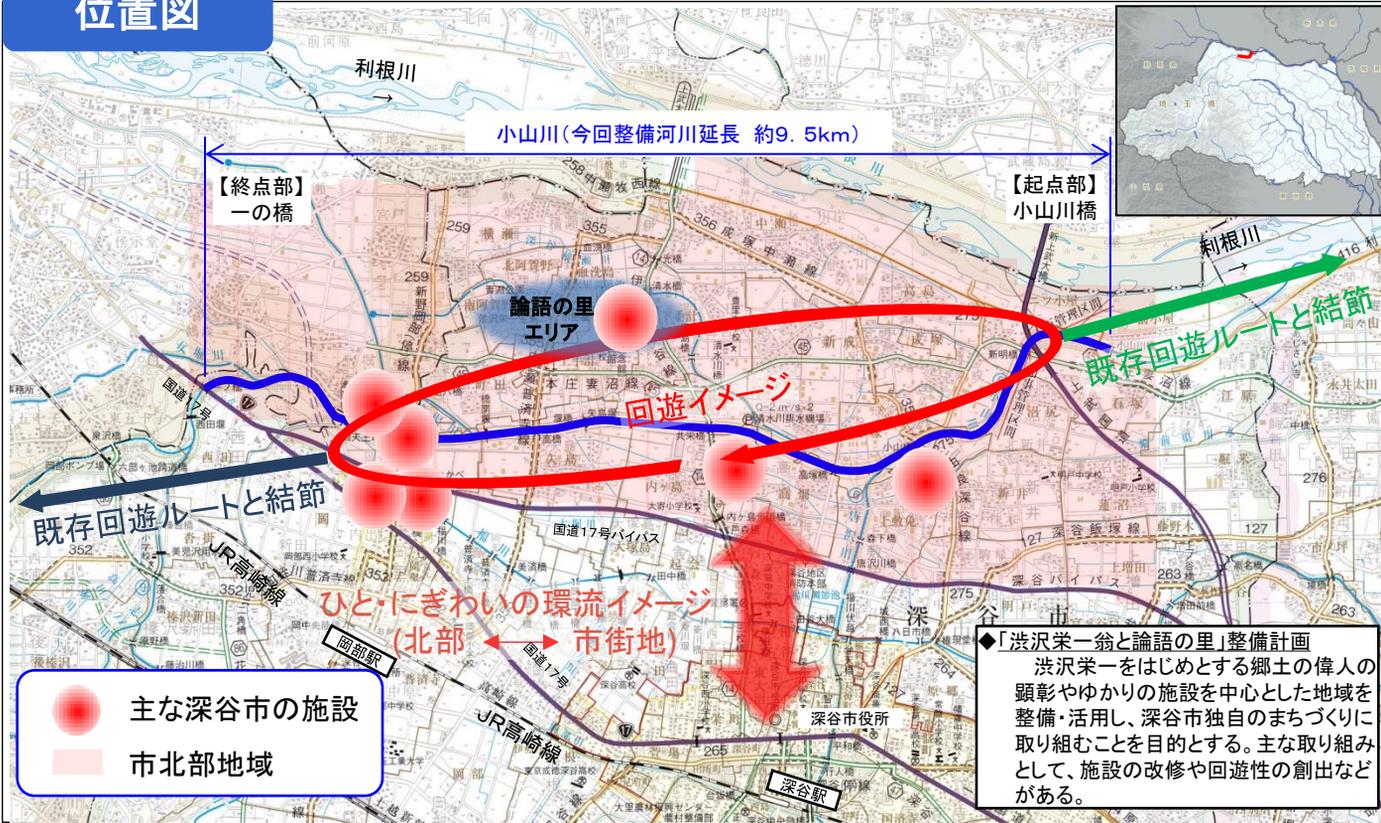
## まちの状況

- 地域資源
  - ・両市は江戸時代には中山道が通り、宿場町として栄えていた。
  - ・深谷市は近代日本経済の父と呼ばれる渋沢栄一の生誕地であり、渋沢栄一により深谷で日本初の機械方式によるレンガ工場が造られた。市内には渋沢栄一関連施設が多く現存している。(渋沢栄一記念館、旧渋沢邸「中の家」、誠之堂・清風亭、旧煉瓦製造施設(ホフマン輪窯6号窯)、備前渠鉄橋など)
  - ・深谷市の渋沢栄一、本庄市の競進社模範蚕室等、絹にまつわる施設が小山川沿川に多い。
  - ・国登録有形文化財であり土木学会の近代土木遺産にも指定される滝岡橋(深谷市・本庄市)がルート上にあるほか、2014年に登録された世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の一つである田島弥平旧宅(群馬県伊勢崎市)が市北部からほど近い場所にある。
- 課題
  - ・文化財施設や道の駅おかべ等が点在しており、施設間での連携がとりにくく、また観光客も効率的に回遊することが難しいため、効果的な観光戦略を立てづらい。
  - ・深谷市は、野菜、花き、畜産、植木など多様な農産物を生産し、県内第1位の農業産出額を誇るが、本市は過去数年間で人口が減少している。これに加え農業の若者離れも著しいため、第1次・第2次産業人口ともに減少傾向にあり、農業衰退が深刻化を増している。中でも深谷市北部地域は第1次・第2次産業が特に盛んな地域であり、「にぎわい」の創出等によりここに住む若者たちが郷土愛を持って住むことができる定住促進対策が課題の一つとなっている。

# 市町村が取り組む事業等の概要

この資料は市の提案書の抜粋であり、この内容の全てが実施されるものではありません。

## 位置図



## 事業等の概要

### ハード

- ウォーク & サイクルロード整備
- ・ 標識等の設置
- ・ 史跡施設等に自転車ラックなどの整備
- ・ 休憩施設（文化財施設、道の駅等の既存ストックを活用）

### ソフト

- イベントの充実
  - ・ ウォーキングイベントの開催(歩き方講習会等の開催)
  - ・ 道の駅イベントの活用
  - ・ 渋沢栄一ゆかりの各施設連携によるスタンプラリー
- 情報発信
  - ・ ガイドブック等の作成及び商工会議所発行「サイクリングマップ」への掲載依頼  
 ※ガイドブックは観光全般のものが一般的であるが、ジャンル別の作成も検討していく
  - ・ 「論語の里」ガイドアプリ、SNS、ホームページ等の活用
  - ・ 広報紙やイベントでの啓発活動
  - ・ 道の駅でのチラシ、ポスター配布
  - ・ 各種メディア及び市イメージキャラクター「ふっかちゃん」を活用し市内外へのPR

## 工程表・想定事業費

	H28	H29	H30	H31	H32	想定事業費
「論語の里」の整備	●	●	●	●	●	700百万円
市道整備、標識、サイクルラックの整備		●	●	●	●	230百万円
ホームページの改修、ガイドアプリの運用	●	●	●	●	●	1百万円/年
イベントの実施 (情報発信(イベントチラシやポスター等)含)	●	●	●	●	●	2百万円/年

# 県に実施してほしい整備の概要

この資料は市の提案書の抜粋であり、この内容の全てが実施されるものではありません。

## 位置図



## 実施してほしい整備概要

### ■ウォーク&サイクルロード（歩行者、自転車道）の整備

- ・堤防天端へアスファルト舗装の整備
- ・交差点部における歩行者、自転車滞留帯の確保
- ・安全施設（車止め、看板、標示等）の設置
- ・扣表示看板の設置

### 【歩行者、自転車道の整備イメージ】

【整備前】



【整備後】



## 工程表・想定事業費

	H28	H29	H30	H31	H32	想定事業費
ウォーク&サイクルロード(歩行者・自転車道)の整備		●	●	●	●	171 百万円